

**東北大学埋蔵文化財調査室  
年次報告2012**



# 東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2012

## 目 次

I.	卷頭言	1
II.	東北大学埋蔵文化財調査室の概要	2
1.	東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査	2
2.	埋蔵文化財調査室の組織と施設	5
3.	運営委員会・調査部会	6
III.	2012年度（平成24年度）事業の概要	7
1.	埋蔵文化財調査の概要	7
(1)	川内北地区の調査	9
(2)	川内南地区の調査	13
(3)	青葉山北地区の調査	15
(4)	富沢地区の調査	20
(5)	女川小乗浜地区的調査	22
2.	遺物整理作業	24
3.	年次報告・調査報告の刊行	24
4.	保存処理事業	25
5.	資料保管状況	25
6.	研究活動	27
(1)	受託研究・共同研究・研究協力等	27
(2)	学会発表等	27
(3)	科学研究費採択状況	27
7.	教育普及活動	27
(1)	非常勤講師	27
(2)	授業など教育活動への協力	27
(3)	保管資料の貸出	27
(4)	外部からの派遣依頼等	27
(5)	広報活動	28
8.	東日本大震災による被災文化財の救援活動	29
《引用・参考文献》		
IV.	資料	
1.	国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程	31
2.	東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2012年度）	33
3.	東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2012年度）	33
4.	東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧	34



## I. 卷頭言

『東北大大学埋蔵文化財調査室年次報告2012』を刊行いたします。

東北大大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大大学の特定事業組織です。埋蔵文化財調査室では、『東北大大学埋蔵文化財調査室調査報告』と『東北大大学埋蔵文化財調査室年次報告』という、二種類の報告書を刊行しています。

施設整備などに伴う記録保存のための本調査については、その発掘調査報告書を、『東北大大学埋蔵文化財調査室調査報告』(以下『調査報告』と略記)というシリーズ名で、各調査ごと刊行しています。『東北大大学埋蔵文化財調査室年次報告』(以下『年次報告』と略記)は、埋蔵文化財調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のために、毎年度ごとに報告しています。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2012年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、および調査室が実施したその他の事業について概要をとりまとめて報告いたします。2012年度は、2011年3月11日に発生した東日本大震災に関わる、震災復旧事業が本格化しました。青葉山北地区と富沢地区では、震災復旧工事に伴う記録保存のための本調査を実施しました。これらの地区に加えて、川内地区や、牡鹿郡女川町の小乗浜地区でも、震災復旧事業に伴う立会調査を実施しています。

さらに、川内北地区で課外活動施設新築計画が急速具体化したため、これに先立つ調査も行うこととなりました。これらの調査を先行して実施する必要があったため、2011年度から行っている地下鉄東西線川内駅前整備に伴う調査は、4・5月に一部の作業を行った後、中断することとなりました。

東日本大震災以降の埋蔵文化財調査室の業務は、これまでに経験したことのない業務量をこなす必要にせまられております。幸い、学内外の関係機関や関係者の多大なご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申しあげるとともに、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香

## II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要

### 1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査

東北大学には、各キャンパスに加え多くの研究施設があり、これらの構内には多くの埋蔵文化財が存在する（表1、図1）。特に川内地区は、ほぼ全域が仙台城跡の二の丸地区と武家屋敷地区にあたっている（図2）。

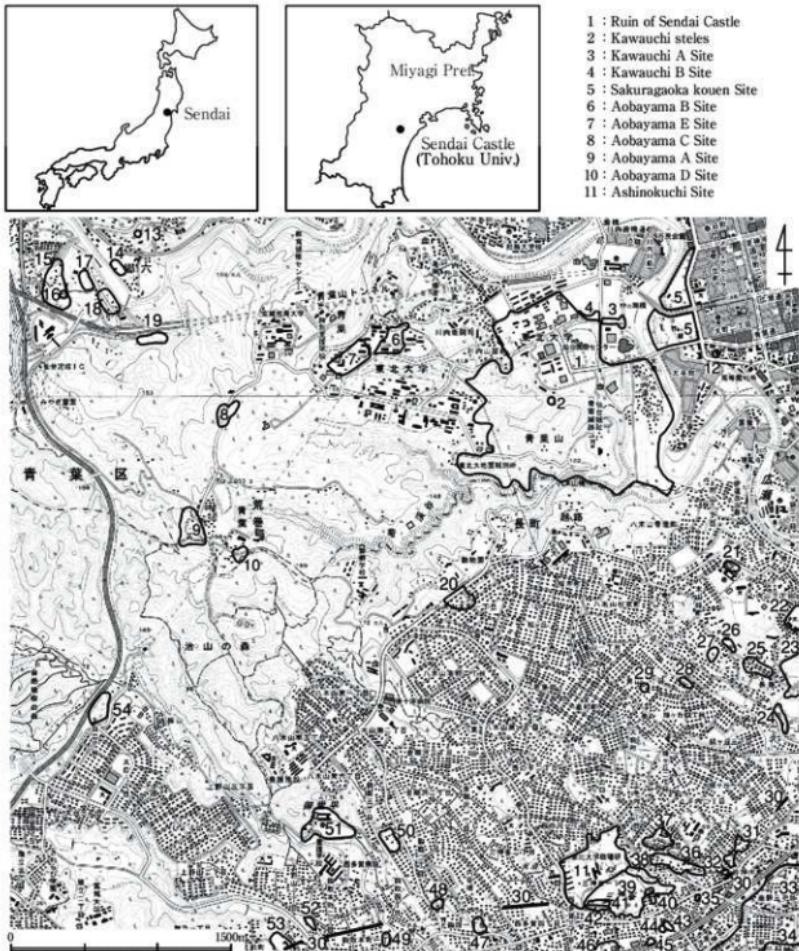
現在の日本では、これらの遺跡（埋蔵文化財包蔵地）において掘削を伴う工事を行う場合、文化財保護法により届出が義務づけられている。工事の掘削で遺跡が壊される場合には、計画の中止や変更により遺跡を現状で保存することが、文化財保護の観点では最善である。しかし現実には、現状保存は難しい場合が多い。そのため、発掘調査を行い記録を作成することで、次善の策とする記録保存という方法が取られている。記録保存のための発掘調査は、経費を原因者が負担した上で、地方公共団体が実施するのが基本である。

構内に遺跡が存在する大学では、施設整備事業などの工事に先立つ記録保存のための調査を実施する組織として、大学内部に埋蔵文化財調査を担当する組織を設けることが進められてきた。考古学や関連する学問分野の専門研究者が大学内部に所属している場合には、学術的に充分な検討がなされるという社会的信頼に基づき、大学独自の埋蔵文化財調査組織が設けられ運営されている。学内に調査組織を設けていると、結果的に迅速な調査と施設整備事業の円滑な推進が図られるという側面もある。

東北大学においても、同様の理由から、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置された。これ以降、東北大学構内の施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、調査委員会の実務機関である埋蔵文化財調査室が実施してきた。1994年度には、調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置された。2006年度には、特定事業組織としての埋蔵文化財調査室へ改組され、事業を引き継いでいる。

表1 東北大学構内の遺跡

団地名	所在地住所	道跡名	県道跡番号	時代	備考
川内1	仙台市青葉区 川内27-1-41他	仙台城跡	01033	近世	二の丸地区・二の丸北方武家屋敷地区・御真林地区
	仙台市青葉区 川内12-2	川内古碑群	01386	鎌倉	弘安10年（1287）・正安4年（1302）他
	仙台市青葉区 川内41	川内B道路	01565	繩文・近世	
青葉山2	仙台市青葉区 荒巻字青葉6-3	青葉山B道路	01373	繩文・弥生 古代	
	仙台市青葉区 荒巻字青葉6-3	青葉山E道路	01443	繩文・弥生 古代	
	仙台市青葉区 荒巻字青葉468-1	青葉山C道路	01442	旧石器	
富沢	仙台市太白区 三神峯一丁目101	芦ノ口遺跡	01315	繩文・弥生 古墳・古代	
川渡	大崎市鳴子温泉 大口字蓬田	上川原遺跡	36006	繩文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	丸森遺跡	36038	繩文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	東北大農場2・3号畠遺跡	36098	繩文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町西	町西遺跡	36106	弥生	
小浜浜	牡鹿郡女川町 小浜浜	小浜浜B道路	73021	繩文	宿舎裏の山林部分



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 川内A遺跡 4 : 川内B遺跡 5 : 桜ヶ岡公園遺跡 6 : 青葉山B遺跡 7 : 青葉山E遺跡  
 8 : 青葉山C遺跡 9 : 青葉山A遺跡 10 : 青葉山D遺跡 11 : 芦ノ口遺跡 12 : 片平仙台大神宮の板碑 13 : 郷六日如来の碑  
 14 : 蔵岡城跡 15 : 郷六城跡 16 : 郷六建武碑 17 : 沼田遺跡 18 : 郷六御殿跡 19 : 郷六道跡 20 : 松ヶ岡遺跡  
 21 : 向山高裏遺跡 22 : 萩ヶ丘遺跡 23 : 茂ヶ崎城跡 24 : ニツ沢横穴墓群 25 : 萩ヶ岡B遺跡 26 : 八木山緑地遺跡  
 27 : ニツ沢遺跡 28 : 青山二丁目遺跡 29 : 青山二丁目B遺跡 30 : 穗手土手(廻除土手) 31 : 砂押屋敷遺跡 32 : 砂押古墳  
 33 : 富沢遺跡 34 : 泉崎浦遺跡 35 : 金洗沢古墳 36 : 土手内窓跡 37 : 土手内遺跡 38 : 土手内横穴墓群 39 : 三神峯遺跡  
 40 : 金山塙跡 41 : 三神峯古墳群 42 : 富沢塙跡 43 : 奥町東道路 44 : 奥町古墳 45 : 原東道路 46 : 原道路 47 : 八幡道路  
 48 : 後田道路 49 : 町道路 50 : 神瀧山道路 51 : 御堂平道路 52 : 上野山道路 53 : 北前道路 54 : 佐保山東道路

図1 東北大学と周辺の遺跡

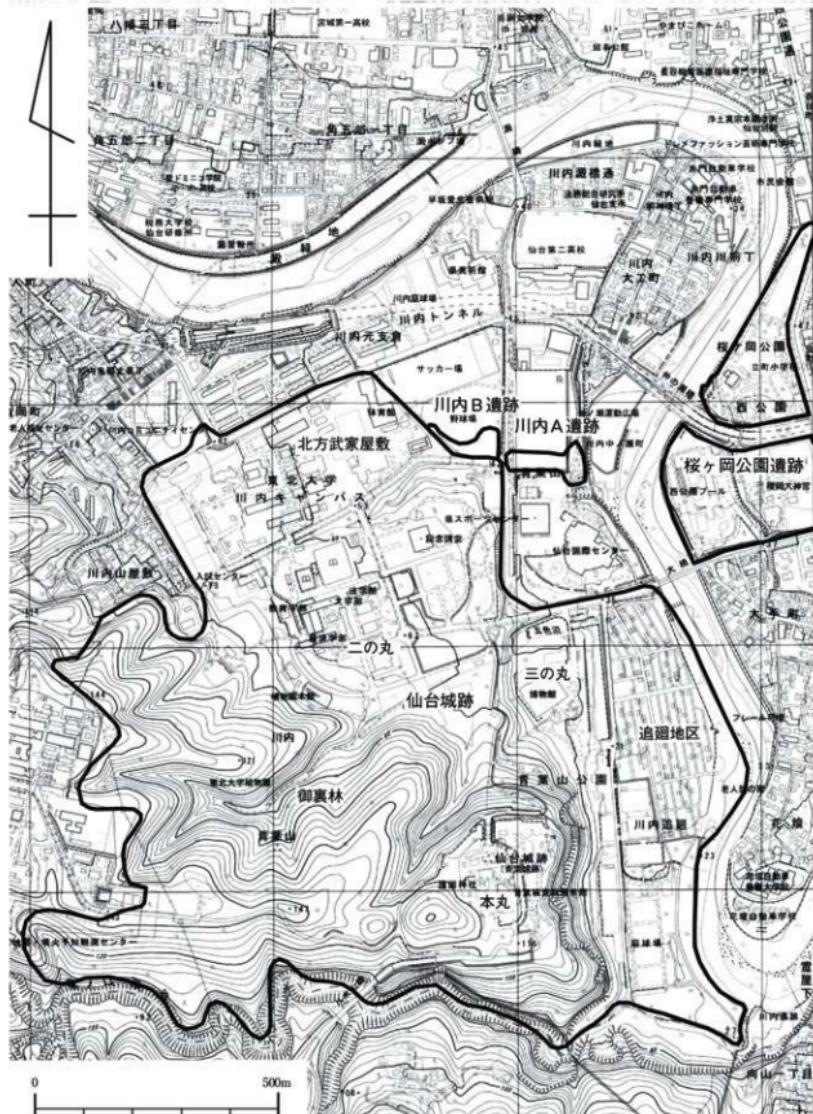


図2 仙台城と二の丸の位置

## 2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設

埋蔵文化財調査室の職員は、併任の調査室長1名、文化財調査員3名（うち特任准教授1名、専門職員2名）、事務補佐員1名（時間雇用職員）、および整理作業を担当する作業員（時間雇用職員）からなっている。2012年度の埋蔵文化財調査室の職員は、表2の通りである。これ以外に、発掘調査を実施している期間は、発掘調査に従事する作業員（時間雇用職員）を雇用している。

埋蔵文化財調査室を運営するにあたって必要な経費は、埋蔵文化財調査室運営費として措置されている。内訳は、事務補佐員1名の人件費と、光熱水料、自動車維持費、消耗品費などである。

発掘調査については、事業費の中に組み込まれる形で、事業ごとに予算化されている。

調査終了後の整理作業と報告書印刷刊行費については、全学的基盤経費によって措置されている。整理作業に携わる作業員の賃金も、ここから支弁されている。

埋蔵文化財調査室の主要な業務は、調査委員会の設置以降、片平地区の生命科学研究科3階の一画を使用して行なってきた。2008年度の、生命科学研究科建物の整備工事に伴い、埋蔵文化財調査室が置かれている区域が取り壊されることとなった。そのため2010年度までは、埋蔵文化財調査室の保管倉庫の1階を改修して、仮設として使用していた。2010年度に、施設部などが入っている本部棟4の1階が空いたため、若干の改修工事を行った上で2011年2月に移転し、これ以降はここで業務を行っている。

本部棟4に移転した後の部屋面積は191.5m<sup>2</sup>で、これに廊下を仕切って収蔵庫としている部分20.5m<sup>2</sup>が加わる。室長室・事務室、調査員室、作業室、予備室、収蔵庫からなっている。収蔵庫は、出土遺物の中でも、報告書に図示され、借用や調査依頼の多い資料についてはこちらで保管している。それ以外の遺物については、保存処理作業棟南側に置かれている収蔵庫において保管している。作業室は、実測やトレースなどの作業をはじめとする整理作業を行う部屋で、報告書などの文献を保管している書架も置いている。予備室は、将来的には、展示ケースなどを整備し、構内遺跡の発掘調査成果を展示し紹介するコーナーとする予定である。

これ以外に、保存処理の作業は、2001年度に生命科学研究科の南側に設置された作業棟（プレハブ平屋建・79m<sup>2</sup>）を利用している。また、ガレージの一部の34m<sup>2</sup>を使用しており、調査室用の公用自動車を保管している他、保存処理用の大型水槽を設置している。発掘調査で使用する機材の一部も、ここで保管している。2003年度には、出土遺物の収蔵庫として保管倉庫（プレハブ2階建・202m<sup>2</sup>）が作業棟の南側に設置され、専用の保管場所が確保された。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北大学にも多大な被害をもたらし、埋蔵文化財調査室でも被害が生じたが、全般に被害程度は軽微で、早期に復旧することができた。家具類の転倒防止措置や、棚への転落防止ベルト（タナガード）の設置が、被害の軽減に極めて効果的であった。

表2 2012年度埋蔵文化財調査室職員

職名	氏名等	備考
調査室長	文学研究科教授 阿子島 香	併任
文化財調査員	特任准教授 藤沢 敦	
	専門職員 柴田 恵子	
	専門職員 菅野 智樹	
事務補佐員	時間雇用職員 内海 幸一	埋蔵文化財調査室運営費を財源とした職員
整理作業員	時間雇用職員 4名（通年4名）	全学的基盤経費を財源とした職員

ただし川内南地区にあった発掘調査用の資材倉庫（プレハブ平屋建・58㎡）は、老朽化していたこともあり、震災により建物の一部がゆがみ、床パネルが2枚はずれて落ちるなどの被害が出た。この資材倉庫は、1984年度に現場事務所として使用を開始し、翌1985年度に現在位置へ移転したものである。これまでに2回、改修工事を行い、資材倉庫として使用を続けてきたが、近年は老朽化が著しくなっていた。震災で受けた被害によって、たちに使用が不可能となる状態ではなかったが、老朽化が激しいため改修を行って継続して使用することは難しいと判断された。いずれ撤去することを前提として、地下鉄東西線川内駅前広場整備に伴う、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（B K14）の調査を2011年9月に開始する際に、倉庫内の機材を全て撤出した。調査において使用する機材は現場事務所へ運搬し、使用しない機材は片平地区へ移動した。2012年度に、震災復旧工事の一環として、この資材倉庫は取り壊して撤去した。

### 3. 運営委員会・調査部会

東北大学埋蔵文化財調査室では、運営に関する重要事項を審議する運営委員会と、運営委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されており、委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営委員会は年度当初に一回開催し、年間の事業予定・予算等などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

2012年度（平成24年度）は、運営委員会は1回開催した。運営委員会の開催月日と議事内容は、以下の通りである。なお、2012年度は、調査部会は開催されなかった。

#### 埋蔵文化財調査室運営委員会

##### 5月15日 審議事項 (1) 室長について

- (2) 平成23年度埋蔵文化財調査結果及び平成24年度の埋蔵文化財調査計画について
- (3) 平成23年度調査室運営費決算及び平成24年度調査室運営費予算について
- (4) 平成23年度の整理作業結果及び平成24年度の整理作業計画について
- (5) その他

##### 報告事項 (1) 東日本大震災の被害状況と対応等について

- (2) 川内萩ホール展示スペース常設展示について
- (3) 調査室ホームページの開設について
- (4) その他

### III. 2012年度（平成24年度）事業の概要

#### 1. 埋蔵文化財調査の概要

2012年度は、記録保存のための本調査4件、確認調査2件、立会調査17件を実施した（表3）。

通常の立会調査は、2009年度途中から、東北大大学埋蔵文化財調査室が実施している。周知の埋蔵文化財包蔵地での土木工事等のための発掘届出に対して、仙台市教育委員会より出される工事立会を通知する文書の指示に従い、工事日程を事前に仙台市教育委員会に提出した上で、当調査室が工事実施時の立会調査を行っている。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、東北大大学の施設も、各所で多大な被害を受けた。応急的な復旧工事や、応急仮設校舎・仮設宿舎建設については、2011年度に工事が実施された。本格的な復旧工事は、平成23年度補正予算で措置され、2012年度に事業が本格化することとなった。

2012年度は、学内予算で整備される、川内北地区での課外活動施設の新営工事に伴う、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点の調査を、急遽5月から実施することとなった。復旧工事に伴う調査を最優先させる必要があるため、その合間を縫って課外活動施設新営に伴う調査を実施することとした。そのため2011年度から行っていた地下鉄東西線川内駅前整備に伴う武家屋敷地区第14地点の調査は、途中で中断することとなった。

表3 2012年度調査概要表

調査の種類	地区	調査地点（略号）	原 因	調査期間	面積 (m <sup>2</sup> )	時期
本調査	川内北	マルチメディア総合研究棟西側（B K14）	川内駅前広場整備工事	4/1~5/31 (前年度より継続)	96	近世
	川内北	川内課外活動施設北東側（B K15）	課外活動施設新営工事	5/1~ (翌年度継続)	1,479	近世
	富沢	電子光力学研究センターR I実験棟東側（TM 9）	電子光力学研究センターR I排水処理設備 災害復旧工事（震災復旧）	8/1~30	89.6	繩文 古代
	青葉山北	サイバーサイエンスセンター青葉山分室東側（A O E 9）	総合研究棟（文系系）新営その他工事 (震災復旧)	9/3~10/31	342.5	繩文
確認調査	川内南	文系大講義棟A・B周辺（NM18）	国際文科系教育研究拠点施設整備計画	3/13~4/26 (翌年度継続)	117.4	近世
	青葉山北	生物棟西側駐車場（2012-10）	理学研究科車庫新築計画（震災復旧）	11/19~20	36	-
立会調査	川内南	文系大講義棟A・B周辺（2012-1）	講義棟同側とりこわし柱補強工事（震災復旧）	4/9	-	-
	川内南	川内南キャンパス全域（2012-2）	災害復旧（文系4学部等）改修工事（震災復旧）	8/30, 9/11~20	-	-
	青葉山北	恵那プラズマ大気研究センターほか北側（2012-3）	理学部構内道路外灯取扱工事（震災復旧）・ 駐店管理設工事	8/21, 10/22	-	-
	青葉山北	生物棟北側（2012-4）	理学部駐輪場新設工事	9/21, 10/11	-	-
	富沢	東北大大学職員寮周辺（2012-5）	地域支援施設新営その他工事 (環境整備・震災復旧)	9/14~10/4	-	-
	青葉山北	自然史標本館北側（2012-6）	自然史標本館外構修繕工事（震災復旧）	9/26	-	-
	青葉山北	数学棟北側・南側（2012-7）	数学棟改修等の他工事（震災復旧）	10/10~30, 11/1, 2/20	-	-
	川内南	附属図書館1号館東側（2012-8）	案内板移設工事	10/30	-	-
	川内南	附属図書館1号館北側（2012-9）	附属図書館改修機械設備工事（震災復旧）	11/6	-	-
	川内北	厚生会館西側（2012-11）	厚生会館西側広場整備工事	11/28	-	-
	青葉山北	R I 総合センター棟西側（2012-12）	R I 総合センター等気送管設備改修工事	12/12	-	-
	川内北	保育所南側（2012-13）	保育所新営工事	12/25	-	-
	川内南	南北入構ゲート（2012-14）	自動車入構ゲート改修工事	2/15	-	-
	川内南	文科系厚生施設西側（2012-15）	文科系厚生施設受水槽更新工事	3/5	-	-
	小乗浜	複合生態フィールド教育研究センター（2012-16）	総合研究棟新営その他工事（震災復旧）	3/7	-	-
	川内南	川内南キャンパス全域（2012-17）	南キャンパス屋外環境整備工事	3/21, 4/23, 5/23 (一部翌年度実施)	-	-
	青葉山北	理学部工場棟東側（2012-18）	衛星データ解析風洞実験室新営工事 (震災復旧)	3/26	-	-

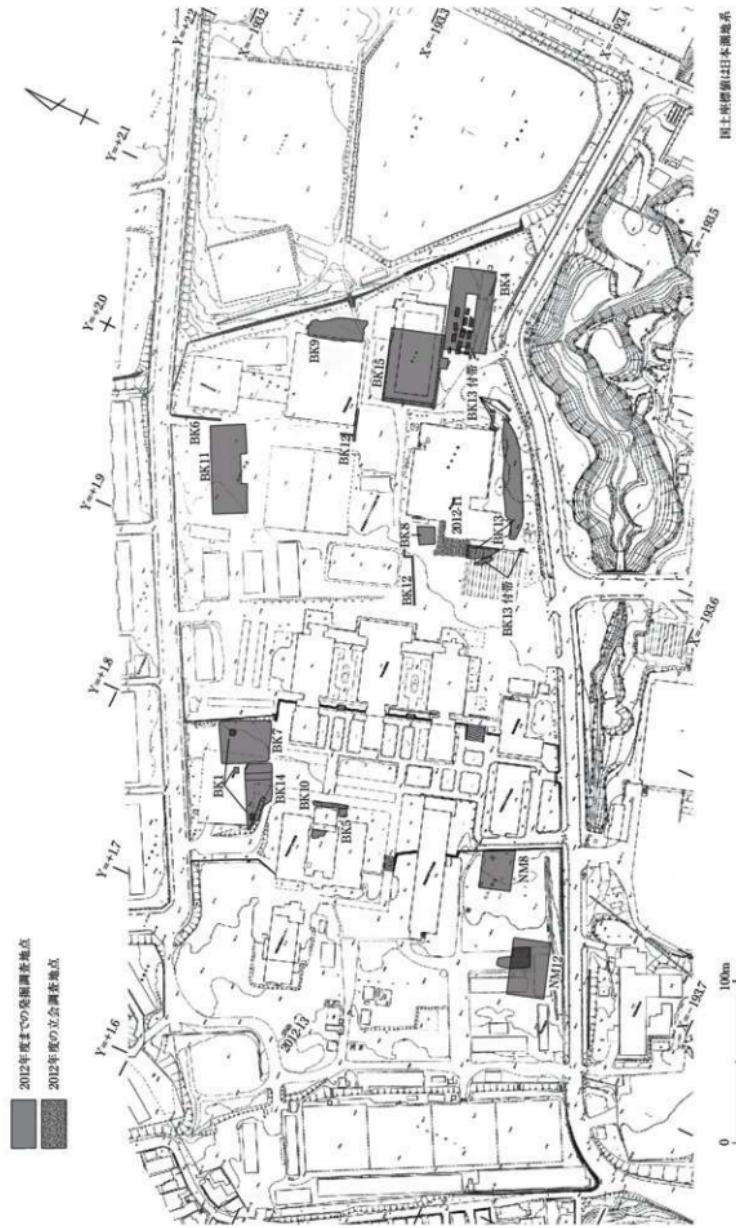


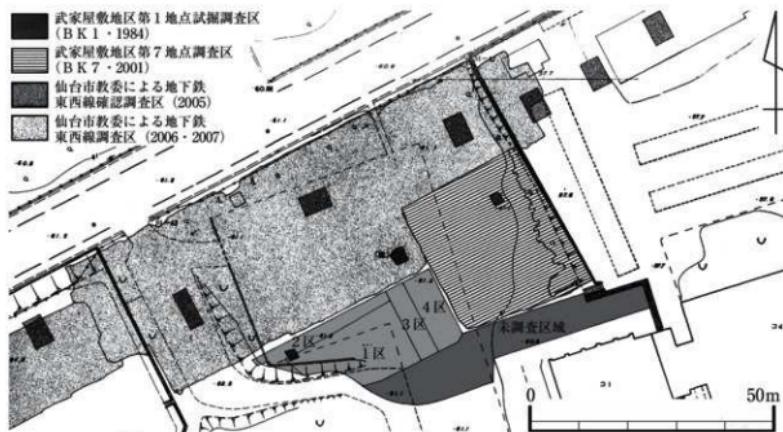
図3 川内北地区調査地点

### (1) 川内北地区の調査

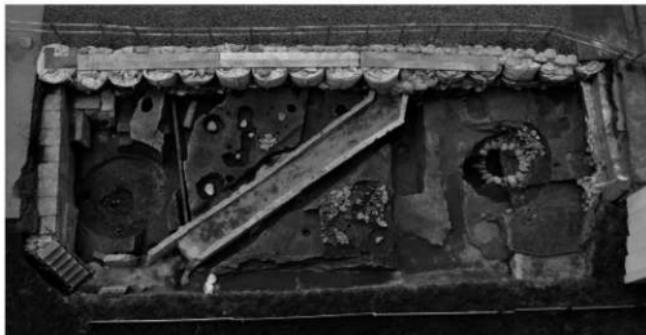
川内北地区では、本調査2件、立会調査2件を実施した（図3）。

- ・仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（B K14・地下鉄東西線川内駅前整備に伴う調査）

仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線の川内駅（仮称）の、駅前広場を整備する工事に伴う調査である。地下鉄東西線は、川内北キャンパスの北端に沿って路線が計画されており、2015年度の開業を目指して建設工事が進められている。この地下鉄東西線では、川内駅がマルチメディア総合研究棟の西側に予定されており、東北大では、この川内駅の出入り口として駅前広場の整備を行うことになった。この場所は、マルチメディア総合研究棟の途中に大きな段差があり、東側の低い部分の高さに合わせる形で、研究棟西側と南側の一段高い部分が削平されることになった。マルチメディア総合研究棟の新宮に伴う調査（仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点・BK



1. 調査地点の位置



2. 4区全景 (東から)

図4 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点調査状況

7)では、段差の低い部分においては江戸時代の遺構面は既に削平されているが、段差の上側では江戸時代の遺構面が保存されていることが明らかとなっている(年報19)。そのため、工事で削平される高い部分を事前調査の対象とした(図4)。

当初は、2011年度の早い時期に調査を開始する予定で準備を進めていた。しかし、東日本大震災による学内施設の被害に関して、施設部をはじめ関係部局が対応に追われていたため、調査の準備が行えない状況が続いていた。緊急の対応が一段落し、準備が整った2011年9月から、ようやく調査を開始することが可能となった。

調査予定範囲には、北側の地下鉄東西線の工事区域を横断するための歩行者や自転車用の通路があり、この通路につながる形で各方向へ通路が延びている。これらの通路を確保しながら、発掘調査を実施する必要があった。そのため、調査区を分けて、通路を移設して確保しながら、順次調査を実施することとなった。2011年の12月末までに1・2区の調査を実施し、3区の調査にとりかかるところまで行っている。厳寒期の1・2月は、図面作成など補足的な調査を行うにとどめ、それ以外の作業は実施していない。3月1日より、3区の本格的な調査を再開した。3区の調査は3月22日で終了し、隣接する4区の調査に備えて埋め戻した。2011年度には、1～3区の401m<sup>2</sup>の調査を終了したこととなる。

2012年度の5月より、課外活動施設新営に伴う武家屋敷地区第15地点の調査を開始することとなったため、第14地点について、4月に4区の調査を実施し、それ以降は調査を中断することとなった。

4区は3区の東側に隣接する区域で、斜面部分を含む95m<sup>2</sup>である。3区を埋め戻して通路を移設した後に重機で掘削し、直ちに精査を行った。精査は4月末で終了し、5月に一部の図面作成など残っていた作業を行った後、埋め戻しと通路の復旧作業などを行った。これらの作業が終了した5月末をもって、第14地点の調査は一旦中断することとなった。1～4区の合計調査終了面積は496m<sup>2</sup>となり、全体調査予定面積の953m<sup>2</sup>のうち、52.0%まで実施したこととなる。残る457m<sup>2</sup>については、第15地点の調査終了後に実施する予定である。

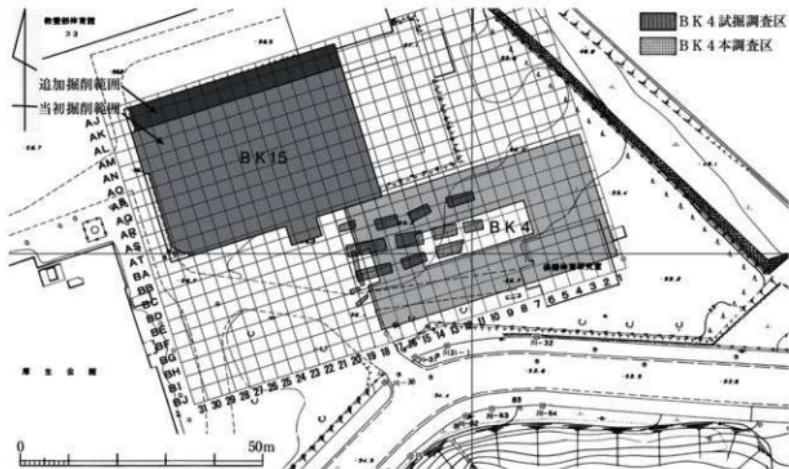
1～4区の調査では、西側ほど明治時代以降の削平が大きく、遺構の保存状態は良くなかった。掘立柱柱穴、溝や井戸などの遺構が、東側を中心に検出されている。第14地点の調査は途中で中断しているため、全ての調査が終了した後に、調査区全体をまとめて整理作業を行い、調査報告書を作成する予定である。

#### ・仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点 (BK15・課外活動施設新営に伴う調査)

川内北地区の東半部には、厚生施設や課外活動施設が置かれている。その中の屋外プールが置かれていた場所を利用して、屋内プールが入る課外活動施設を新たに建設する工事に伴う調査である。東日本大震災によって、片平地区などの課外活動施設が被害を受け、一部は使用できなくなった。この状況の中で、従来から懸案であった、片平地区的老朽化した課外活動施設を川内地区へ移転するために、学内予算を財源に新たな施設を建設することとなったものである。新施設建設の方針が、2011年度末になって急速具体化した。そのため、既に調査を実施していた地下鉄東西線川内駅前整備に伴う、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 (BK14) の調査を中断し、課外活動施設新営に伴う調査を実施することとなった。ただし、震災復旧のための平成23年度補正予算による事業も同時に進行することから、震災復旧工事に伴う調査を最優先しながら、その合間に繋って課外活動施設新営に伴う調査を実施することとした。

調査地点は、現在ある課外活動施設の新営に伴い1994～1995年度に実施した武家屋敷地区第4地点の調査区の北西側に隣接する。第4地点の調査では、江戸時代の各時期にわたる掘立柱建物、掘立柱列、溝など多数の遺構が検出され、遺物も多数出土している。この調査データから、既存プール建設による削平は一部にとどまり、大部分は破壊されずに残っているものと考えられた。そのため基礎工事で掘削される範囲の全城を、記録保存のための事前調査の対象とした。ほぼ長方形の建物本体部分と、南側に非常階段の基礎部分が一部突出する形の調査区となっている(図5)。

既存のプールの解体工事が4月に実施されるため、5月当初から調査を実施することとした。重機によって、



1. 調査区配置図



2. 調査区全景 (北側拡張以前・4層除去後の状況、上が北)

図5 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点調査状況

明治時代以降の盛土を除去し、手掘りによる精査に移行した。なお、北側5m幅については、車両通路を確保する必要から、当初の掘削範囲からは除外し、追加で掘削することとした。

基本層序は、おむね第4地点と同様であった。1層は、陸軍以降の盛土層を含む表土層である。2層・3層は、明治20年頃の陸軍第二師団造成時と考えられる整地層で、第4地点でも確認されている。4層は、明治時代の武家屋敷撤去後で、第二師団造成以前の整地層である。第4地点では、4層上面で畝状遺構が検出されており、畑として使用されていた区域があることが判明している。5層は、調査区北半部のやや低い部分に見られた整地層である。5層上面では、遺構はごくわずかしか検出されないことから、4層と大きな時間差なく、明治時代以降に形成された可能性が考えられる。5層の下位は、地山層となる。

1～3層は重機で除去し、4層上面段階から精査を行った。7月11日には、4層上面段階でのラジコンヘリによる空撮および写真測量を実施した。その後、4層の掘り下げを一部行った段階で、震災復旧事業に伴う富沢岸ノ口遺跡第9次調査(TM9)、青葉山E遺跡第9次調査(AOE9)を実施するため、7月末で作業は中断することとなった。作業中断の期間には、米軍時代の給水管など、作業の支障となる施設の撤去作業などを、この期間を利用して行った。

11月より作業を再開し、12月19日には、4層を除去した段階でのラジコンヘリによる空撮および写真測量を実施した。その後、一部に先行トレンチを設けて、5層の堆積状況などを確認した。また、北側の未着手部分の調査を行うため、調査区の南東隅と非常段階の部分については、大型の土糞を利用して埋め戻し、その上面に碎石を敷きならして車両通路とした。この埋め戻した区域は、4層を除去した段階で地山上面が露出しており、地山上面での遺構分布を確認した段階で埋め戻している。調査の最終段階で、この区域の遺構の掘り下げを行おう予定である。これらの作業を実施した段階で2012年12月の作業は終了し、1・2月は厳寒期のため手掘り精査の作業は中断した。

精査中断中の2月に、北側の未着手部分の重機による追加掘削を行った。3月当初より手掘りによる精査を再開し、この北側拡張部分の調査に取りかかった。北側拡張部分の4層上面・5層上面の記録については、遺構はわずかと想定されたことから、平面図は手作業で作成し、写真は地上から斜め俯瞰で撮影することとした。4層上面段階については3月8日、5層上面段階は3月15日に、写真撮影を行っている。その後、当初掘削部分も含めて、5層の掘り下げに取りかかり、その途中で2012年度の作業は終了した。

2013年度当初からは、平成24年度補正予算による、学生支援センター新館に伴う武家屋敷地区第16地点の調査を先行して行うことになった。そのため第15地点の調査は、ごく一部の作業を行うだけとなり、本格的な調査は平成24年度補正予算に伴う調査が終了した後に再開することとした。第15地点の調査は途中で中断しているため、全ての調査が終了した後に整理作業を行い、調査報告書を作成する予定である。

立会調査を実施した2件の概要は、以下のとおりである。

#### ・厚生会館西側広場整備工事(2012-11)

川内北地区の厚生会館は、2008年度から2009年度にかけて改築工事が行われ、その際に周辺の整備も実施されている。西側の広場の芝貼り部分の芝が枯れ、土砂が露出し雨天時に泥地となることから、ウッドチップ舗装とすることとなった。工事による掘削は、表層のごく浅い部分に留まり、特に問題はなかった。

#### ・保育所南側保育所新設工事(2012-13)

川内北地区の北西よりのところにある、教職員用のけやき保育園の既存建物の南側に、医務室のスペースを増築する工事である。この既存の保育園は、木造平屋で基礎の深さも浅いことから、2005年度の建設工事の際には立会調査で対処したものである。今回の増築工事での基礎設置による掘削は、深い部分でも現地表より55cmほどで、前回工事での掘削深度と同程度であったため立会調査とした。工事による掘削は、新しい盛土層内にとどまり、問題はなかった。

## (2) 川内南地区の調査

川内南地区では、確認調査1件、立会調査7件を実施した（図6）。

### ・仙台城二の丸地区第18地点（NM18）

文系大講義棟を建て替える形で、国際文化系教育研究拠点施設を整備する計画に伴う確認調査である。予定地には現在2棟の講義棟が並んで建てられているが、講義棟の中庭部分などでは、江戸時代の地層・遺構が残存している可能性が高いと考えられた。川内南地区は、仙台城跡の二の丸地区に相当し、仙台市教育委員会が将来国史跡に指定したいとの意向を表明している。重要な区域にあるため、仙台市教育委員会・宮城県教育委員会と協議し、整備計画の可否を含め対処方針を検討するデータを得るために、計画区域での遺構などの保存状態を確認する目的で確認調査を実施することになった。2013年の3月後半に、重機による掘削作業を開始した。手掘りによる精査は、翌2013年度の4月以降に実施することになった。そのため調査の概要是、「年次報告2013」に掲載することとする。

立会調査の概要是、次のとおりである。

### ・文系大講義棟A・B周辺講義棟回廊とりこわし柱補強工事（2012-1）

法学研究科と経済学研究科の大講義室がある文系大講義棟は、2階建ての階段教室が2棟並んでいる。階段教室への入り口の2階をつなぐため、2棟の建物をロ字形につなぐ回廊が造られている。東日本大震災では、この回廊が大きく被害を受けた。建物に接する部分は、教室への入り口のため柱を改修強化して使用し、建物をつなぐ部分については取り壊すことになった。工事に伴う掘削は、既存の基礎設置の際に掘削された範囲にとどまり、問題はなかった。

### ・川内南キャンパス全域災害復旧（文系4学部等）改修工事（2012-2）

川内南地区的給水管・排水管は、多くが設置後40年前後が経過して老朽化していたため、東日本大震災によって各所で被害を受けた。これらを更新することとなり、既存管を入れ替える形で工事が計画された。ほとんどの区域では、今回の工事による掘削は、既存管設置の際に掘削された範囲にとどまり問題はなかった。しかし一部については、支障物などで既存管のルートを使用できない部分があった。図書館北側を通る給水管では、既存管の上に車庫が造られているなど、一部で新たなルートで掘削をする必要があった。立会調査によって遺跡に影響のない部分を探り、埋設深さの調整も必要に応じて行って設置することとした。

### ・附属図書館1号館東側案内板移設工事（2012-8）

川内南地区を南北に通る道路（通称中善通り）を渡る、附属図書館の南東側にある横断歩道について、位置をずらすことになった。それに伴い、案内板の位置を移動することが必要となった。移設予定地に、現在使われていない古い排水管が埋設されていた区域があったため、そこに移設することとした。工事に伴う掘削は、すでに掘削された範囲にとどまり、問題はなかった。

### ・附属図書館1号館北側附属図書館改修機械設備工事（2012-9）

附属図書館1号館の震災復旧工事の一環で、空調設備の排水配管を、屋外の既存排水管に接続する工事である。図書館1号館の北側に沿って埋設された排水管の既設橋を利用したため、図書館建物建設の際に掘削された範囲にとどまり問題はなかった。

### ・南北入構ゲート自動車入構ゲート改修工事（2012-14）

川内南地区的文系4学部構内へは、図書館南東側と厚生施設の西側の2ヶ所に自動車入構用の入口があり、ゲートが設置されている。車両検知用に道路に埋設されたループコイルが老朽化したため、交換する工事である。アスファルト舗装下の既存ループコイルを撤去し、新たに入れ替える工事であり、問題はなかった。

### ・文科系厚生施設西側文科系厚生施設受水槽更新工事（2012-15）

川内南地区厚生施設の西側に設置された受水槽を更新する工事に伴い、受水槽につながる給水管・排水管を入

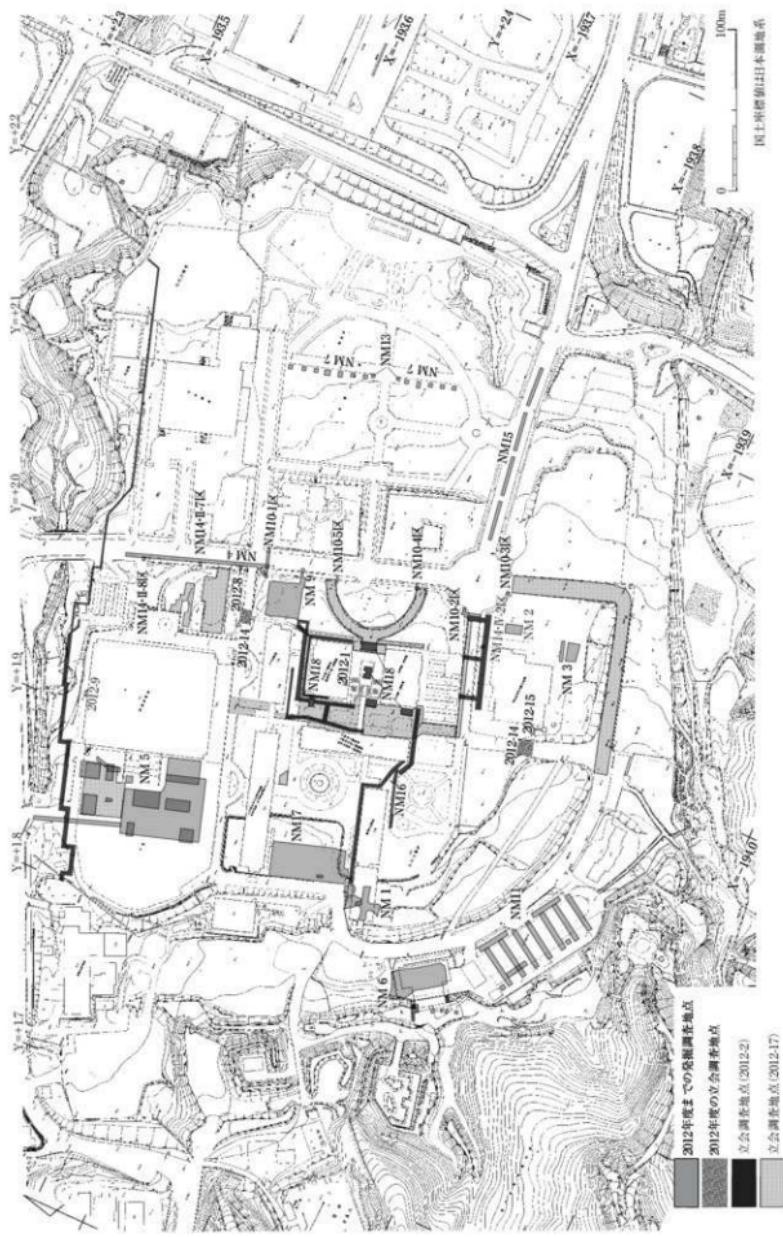


图 6 川内南地区調查地点

れ替える工事である。受水槽の脇に附属する配管の立ち上がり部分と、受水槽から厚生施設南西側のポンプ室をつなぐ給水管が取り替えられることとなった。いずれも、既存配管を入れ替える形で工事が行われ、すでに掘削された範囲にとどまり問題はなかった。

・川内南キャンパス全域南キャンパス屋外環境整備工事（2012-17）

川内南地区では、既存の排水溝などが老朽化するとともに、繰り返されてきた各種工事による舗装の傷みなどが目立っていた。上記災害復旧工事（2012-2）でも必要最小限の範囲を掘削して復旧したため、舗装が各所で継ぎ接ぎ状態となっていた。そのため川内南地区の全域で、屋外環境整備工事を行うこととなった。なお、一部の工事は翌2013年度に実施されたが、概要報告はここでまとめて行うこととする。

工事範囲は大きくA～Eの5工区に分けられる。

A工区は文系大講義棟の周辺一帯で、舗装改修、側溝改修、雨水排水管および排水溝改修、車止め・ベンチ設置などの工事である。側溝や排水関係は、既存のものを入れ替える工事である。ほとんどの部分は、既に掘削された範囲にとどまり問題はなかった。しかし、厚生施設北側の道路側溝の改修工事部分では、二の丸第10地点2区の北側に接する地点で、排水溝入れ替えのための掘削が、明治初頭の遺物包含層に一部がかかり若干の遺物が露出することとなった。ここについては、これ以上の掘削を行わないよう対処した。

B工区は、図書館1号館南東側の駐車場として利用されていた区域およびその北側の緑地である。駐車場は、駐輪場として再整備されることとなり、駐輪場屋根基礎、車止め・ガードポール設置、アスファルト舗装などの工事が行われた。北側緑地は、駐輪場へ至る通路として、インターロッキング舗装がなされた。いずれも掘削は40cm以下で、新しい盛土の範囲であった。

C工区は図書館2号館北側の駐車スペースで、アスファルト舗装、側溝埋設、雨水溝設置、排水管理設、外灯移設などの工事を行うものである。この区域は、以前に盛土でかさ上げされた区域であり、問題はなかった。

D工区は文系厚生施設の東側から南側の道路部分で、既存アスファルト舗装の改修である。掘削は既存舗装の撤去にとどまり、問題はなかった。

E工区は文・教研究棟の南側で、既存アスファルト舗装を改修するものである。掘削は既存舗装の撤去にとどまり、問題はなかった。

### （3）青葉山北地区の調査

理学研究科・薬学研究科などが所在する青葉山北地区では、本調査1件、確認調査1件、立会調査6件を実施した（図7）。

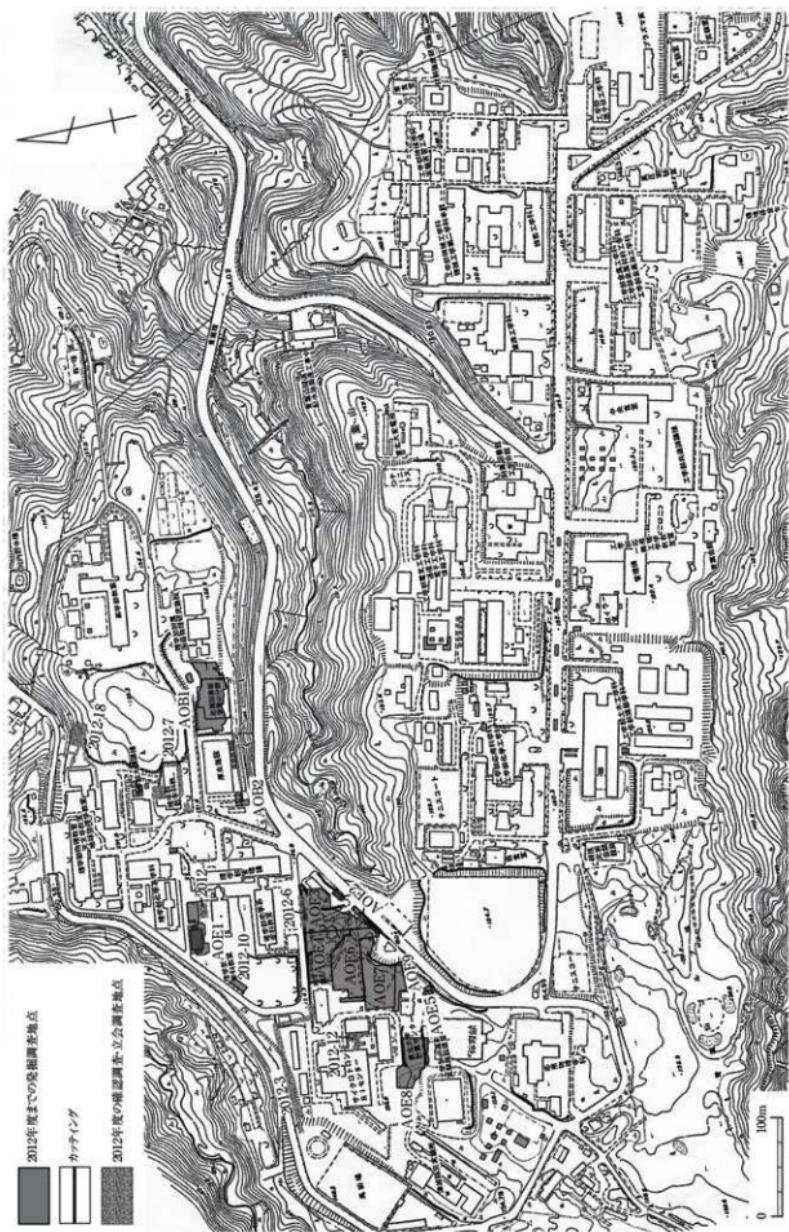
・青葉山E遺跡第9次調査（AOE9・総合研究棟（理学系）新営その他工事に伴う調査）

東日本大震災によって、理学研究科では化学棟・物理棟などが大きく被害を受け、一部は使用ができなくなつた。このことによって生じる研究室・実験室の不足解消のため、総合研究棟を新築し復旧することとなった。理学研究科では、自然史標本館の西側に、研究実験棟を3期に分けて整備する計画を有していた。これまでに1期・2期分の工事が終了し、総合研究棟として利用されている。今回の新築復旧は、この3期分の計画場所を利用する形で実施されることとなった。工事予定区域は、第7次調査区の南側に隣接する場所である。

建物本体の部分は、すでに2002・2003年度に、青葉山E遺跡第7次調査として事前調査を実施していた。建物計画が変更され一部未調査区域が生じたことと、建物南側の外構整備の区域についても調査が未了であったため、今回記録保存のための事前調査を実施することとなった（図8）。

富沢地区での芦ノ口遺跡第9次調査（TM9）を8月に実施していたので、それに続いて9～10月に調査を行うこととした。重機による表土除去の結果、標高の高い調査区西端部では、表土直下から地山層（3層以下）が検出され、遺物包含層等は削平されていることが判明した。その他の調査区では、以前の調査と同様に旧表土面

図 7 青葉山地区調査地点



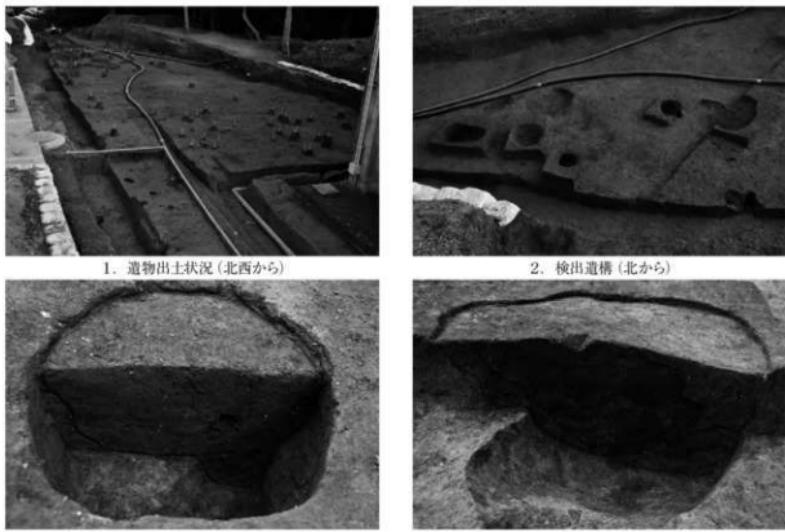


図8 青葉山E跡第9次調査状況

が検出され、以下の層に関しては手掘りによる調査を進めた。

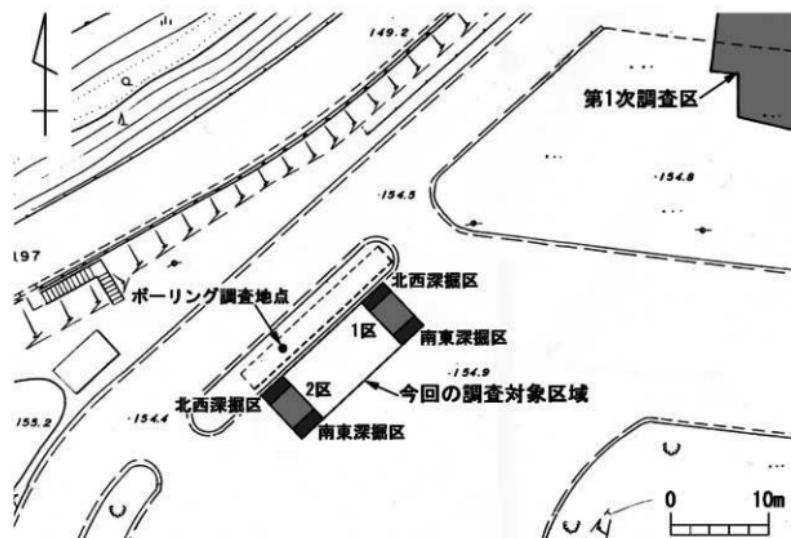
青葉山E跡では、これまでに8次の調査が実施されている。その内の2～8次調査は、今回の調査区の近隣で、縄文時代早期を中心とする時期の遺構・遺物が発見されている（『東北大大学埋蔵文化財調査年報』11～15・20）。今回の調査で確認された基本層序は、以前の調査と大きな差異はない。大学による盛土を含む現表土層の下に、盛土以前の旧表土層が認められる。その下に、遺物包含層となる2層が調査区東端まで広がっている。この2層は、2a層と2b層に分かれる。2a層では遺物が多く出土している。2b層は3層への漸移層となる。3層以下はローム層となるが、遺物は無い。南側壁際の2箇所で深掘区を設定し、ローム層の堆積状況を確認した。

遺構は2a層中にて土坑5基、3層上面で土坑2基を確認した。2a層中で検出した土坑は、調査区北東部に集中している。土坑は円形・楕円形プランで、それほど深くはなく、出土遺物も多くない。遺物は、縄文土器（早期・中期）と石器合わせて約250点が出土した。

調査成果は、震災復旧事業に関わる調査を取りまとめた『調査報告4』において、報告する予定である。

#### ・生物学棟西側駐車場理学研究科車庫新築計画に伴う確認調査（2012-10）

サイクロトロン実験棟北側にあった理学研究科の車庫が、東日本大震災による地滑りで取り壊しとなつたため、生物学棟西側の駐車場に車庫を新築する計画に伴って実施した確認調査である。今回の調査場所は、第2～9次調査（AOE 2～9）が行われてきた区域の北側で、第1次調査（AOE 1）の実施場所との間に位置する（図7）。現状では、北側の第1次調査が実施された区域から続く平坦な地形となっており、大学造成時には大きな改変を受けていないと想定していた区域である。しかし、車庫新築計画に伴い実施されたボーリング調査では、現地表より4mの深さまで盛土であるとの所見が示された。建築予定地点が大きく盛土された区域である可能性も考えられたため、建築計画場所の遺跡の状況を把握する目的で、確認調査を実施した（図9）。



1. 調査区配置図



2. 1区全景(西から)



3. 2区全景(北から)



4. 2区南東深掘区(北西から)



5. 2区北西深掘区(東から)

図9 青葉山E遺跡理学研究科車庫新築計画に伴う確認調査状況

車庫建物とはほぼ同じ範囲の内、北西側のコンクリートたたき部分を除いた、17m×6mの範囲を調査対象範囲として、表面のアスファルトを除去した。この範囲の両側の3m×6mの範囲2ヶ所で、アスファルト下の砕石層を除去した。北東側を1区、南西側を2区とした。1区・2区のいずれも、砕石層の下位には盛土が広がることが確認された。そのため、2ヶ所の調査区の両端で、12mほどの幅で盛土を掘削して、盛土の厚さなどを確認した。法令に基づき、掘削深度は現地表より2mまでとした。

2区南東深掘区の南端コーナーでは、現地表から2mの深さで、盛土以前の表土である黒褐色シルト層が確認された。この旧表土上面は、北側に向かって傾斜していくことが確認された。これ以外の3ヶ所の深掘区では、現地表より2mの深さまで盛土が続いている、さらに深い所まで盛土であることが確認された。いずれの調査区においても遺物は出土していない。

以上の調査結果と、ボーリング調査の所見から、今回の工事予定区域は、現地表より2m以上もの深さまで盛土で厚く整地されていることが判明した。調査地点周辺は、南西から北東方向へ延びる尾根状の地形となっているが、調査区周辺は、尾根の中でも標高が下がる鞍部状の部分か、あるいは沢状に開析された部分と考えられる。大学造成時に、尾根の高い所を削平し、大規模に盛土を施して平坦にしたと考えられる。南側の尾根の高い部分での縄文時代の包含層が検出されている区域と比べると、今回の調査区域の造成以前の地形は標高が大きく下がるため、包含層が延びてくる可能性は考え難いと判断される。そのため、これ以上の調査は行わないこととした。

立会調査を実施した6件の概要は、以下のとおりである。

・サイクロotron実験棟ほか北側理学部構内道路外灯取設工事・圧送管理設工事（2012-3）

青葉山北地区の北西端にあるサイクロotron実験棟の北側は、大きな崖となっていたが、東日本大震災によって崖に近い場所で地割れなどの被害が出た。大学造成時に平坦面を広げた際の盛土と地山の境で地滑りが生じたものである。周知の遺跡の範囲外であったため、2011年10月から2012年4月にかけて、盛土部分を撤去して、法面を整備する工事を実施している。この工事の際、法面の下に砕石舗装の道路を整備したが、そこに外灯を設置する工事である。サイクロotron実験棟の東側の、惑星プラズマ大気研究センターから電気ケーブルを埋設していく計画のため、一部区域では周知の遺跡の範囲内で工事が行われることとなった。また、地滑りで撤去した範囲には、青葉山新キャンパスから延びてくる、污水排水のための圧送管が埋設されていた。これを移設する工事でも、一部区域では周知の遺跡の範囲内を通ることとなった。いずれの工事でも、掘削範囲が狭いことから立会調査としたが、いずれの工事においても、遺物が含まれている地層は残っていなかった。

・生物学棟北側理学部駐輪場新設工事（2012-4）

駐輪場新設工事で、屋根の基礎を設置し、舗装を行うものである。今回の工事箇所のすぐ北側では、超伝導磁気共鳴装置室新宮に伴い、2010年度に確認調査を実施している（2010-2、「年次報告2010」）。この調査では、旧石器時代以降の地層は削平されていることが確認されている。そのため今回の工事区域でも、遺構や遺物が発見される可能性はほとんどないものと考え、立会調査で対処したが、特に問題はなかった。

・自然史標本館北側自然史標本館外構修繕工事（2012-6）

自然史標本館の北側で、東日本大震災により小規模な法面崩壊と地盤沈下がおきたため、土留め擁壁設置、雨水管・雨水橋設置、土間コンクリート打設などの工事で修繕するものである。1994年度に実施した自然史標本館新宮に伴う青葉山E遺跡第3次調査（AOE3、年報12）で調査済みの区域であり、問題はなかった。

・数学棟北側・南側数学棟改修その他工事（2012-7）

青葉山B遺跡の西側にある数学棟では、東日本大震災で被害を受けたため、耐震補強および構造補強を兼ねた増築工事を行うこととなった。既存建物北側と南側が、新たな基礎設置のため掘削されることとなった。数学棟周辺の現在の地盤は、東側の松林より標高が低くなってしまい、建物建設の際に削平された区域である。そのため縄文時代などの地層は削平されていると考えられ、遺物が含まれている地層は確認できなかった。

・R I 総合センター棟西側 R I 総合センター棟気送管設備改修工事（2012-12）

R I 総合センター棟とサイクロトロン実験棟を結ぶ、気送管を改修する工事である。二つの建物の間に、新設気送管配管の支柱基礎を設置するものである。既存建物建設の際に、掘削された区域であり問題はなかった。

・理学部工場棟東側衛星データ解析風洞実験室新営工事（2012-18）

衛星データ解析実験室と風洞実験室は、サイクロトロン実験棟北側の東日本大震災で地滑りをおこした区域に建てられていたため、大きな被害を受け取り壊された。その代替えに、同規模の建物を1棟にして新築復旧する工事である。理学部工場棟の東側の、青葉山B遺跡の北端で新築されることになった。工事場所は、青葉山B遺跡の松林より標高が低く、既に削平されている区域であり、縄文時代などの地層は残っていなかった。

#### （4）富沢地区の調査

富沢地区的芦ノ口遺跡では、本調査1件、立会調査1件を実施した（図11）。

・富沢芦ノ口遺跡第9次調査（TM9・電子光力学研究センターR I 排水処理設備災害復旧工事に伴う調査）

電子光力学研究センターで使用していたR I 排水処理施設が、東日本大震災により被害を受け使用不能となつたため、R I 実験棟の東側に処理設備を新設して復旧することになった。処理設備本体については、記録保存のための事前調査を実施し、フェンス基礎や給排水管理設部分については立会調査で対処することとした。

発掘調査は、準備が整った8月に調査を実施した。重機により現表土と盛土等を除去後、黒色の旧表土層（2層）をほぼ全面に検出した。この2層以下に関しては、手掘りにより調査を進めた。その結果、縄文土器・石器を主体とする遺物約150点が出土するとともに、調査区中央部にて東西に走る沢状の落ち込みを確認した（図10）。

基本層序は6層に大別した。1層は現表土と盛土、2層が旧表土層。2層には遺物も多少含まれる。色調や混入物などから2a～2e層に細分した。3層は主体となる遺物包含層。4層は漸移層で、遺物もごく少数含まれ



図10 富沢地区芦ノ口遺跡第9次調査状況

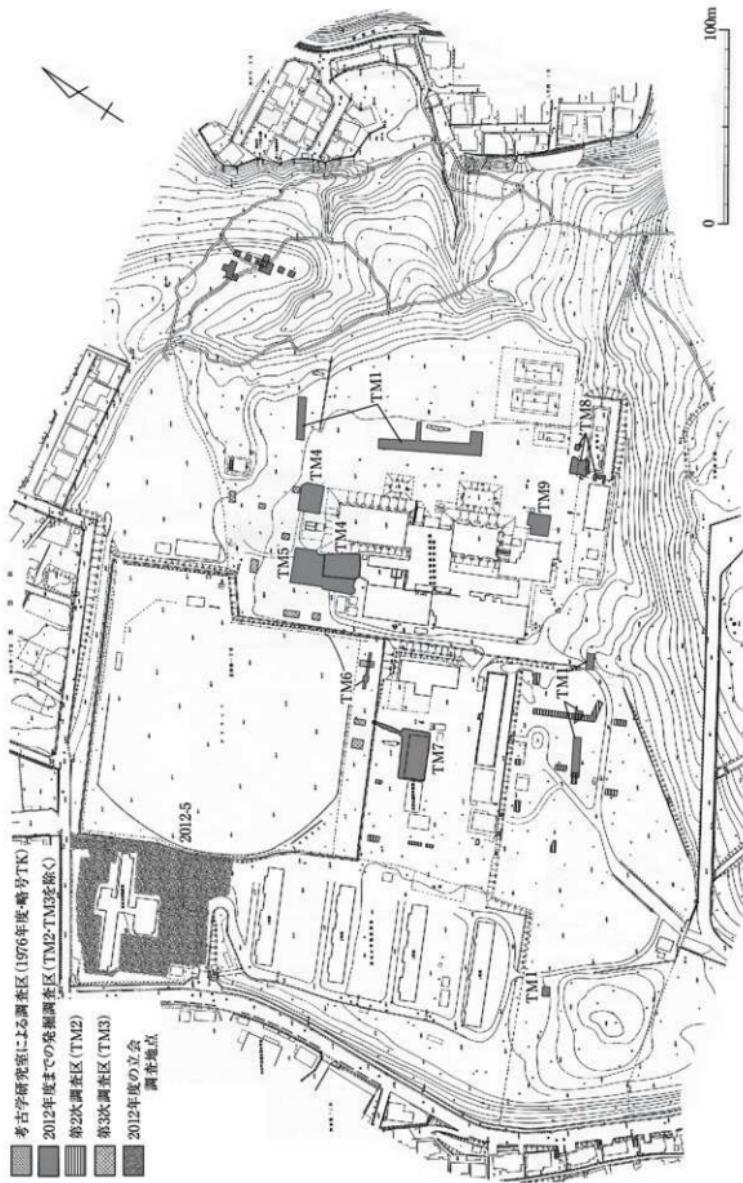


図11 富沢地区調査地点

る。土質で4a層と4b層に細分した。5層はローム層、6層は砂礫層で、5・6層からは遺物は出土していない。沢状の落ち込みの南岸部では、落ち込みに向かって侵食された不整形な崖地が多数認められた。この崖みには、3層が厚く堆積していた。調査区全体に広がる3層からは、縄文土器・土師器・石器が出土しているが、とくに南東部に多く分布していた。遺物には、やや大形の破片も存在するが、完形となるような個体は無い。これらの遺物は全体的に摩耗しており、遺存状態も良くはない。また、沢状の落ち込みの埋土では、面的に広がるテフラ層が確認できた。このテフラについては、十和田aテフラ(To-a)との鑑定結果が出ている。

調査成果は、震災復旧事業に関わる調査を取りまとめた「調査報告4」において、報告する予定である。

立会調査の概要は、以下のとおりである。

・東北大学職員寮周辺地域支援施設新営その他工事（環境整備）（2012-5）

東北大学の富沢団地には、その西側に職員宿舎が並んでいる。東北大学の長町宿舎が、東日本大震災によって使用不能となつたため、地域支援施設（富沢宿舎5号棟）として富沢団地で新築復旧がなされた。この5号棟は、最も北側に建っている独身宿舎の南側にあたる場所で、敷地の北西隅に近い場所で建設された。富沢団地の北西部は遺跡の状況が判りていなかつたため、2011年度に確認調査を実施している（2011-13、「年次報告2011」）。この調査の結果、建設場所は西側へ下っていく地形で、遺構・遺物が存在する可能性はほとんどないと考えられたことから、立会調査で対処している。今回の工事は、この新築された5号棟と、北側の独身宿舎の周辺の環境整備工事である。舗装、植栽、排水設備設置などが中心の工事であり、前回調査結果を踏まえ立会調査で対処したもので、特に問題となることはなかった。

（5）女川町小乗浜地区的調査

宮城県牡鹿郡女川町の小乗浜地区に、大学院農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センターの複合水域生産システム部（旧海洋生物資源教育研究センター）が置かれている。ここでは、立会調査1件を実施した。

・複合生態フィールド教育研究センター複合水域生産システム部総合研究棟等新営その他工事（2012-16）

複合水域生産システム部は、東日本大震災による津波によって、全ての施設が壊滅的な被害を受けた。そのため、地盤を盛土で5mほどかさ上げした上で、新築復旧することとなった。

小乗浜地区では、施設の裏手の丘陵が、小乗浜B遺跡として遺跡登録がなされている（図12）。被災前に職員宿舎が置かれていた区域の上には、漁具干場として使用されている平坦面があり、かつては宿舎が建っていた場所である。周知の遺跡として登録されている範囲は、この漁具干場から上側の丘陵部分である。小乗浜B遺跡では、以前に縄文土器が出土しているが、地形の変更も著しく、現状で遺跡の状況を把握することは難しい状態となっている。

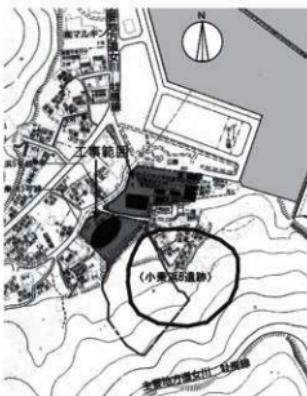
今回の工事は遺跡登録範囲には重ならないが、遺跡の内容が不明なため、2012年3月に宮城県教育委員会と女川町教育委員会の担当者と合同で、現地の状況を確認して対処方針を協議した。その結果、盛土工事や建物建設工事では、遺跡への影響はないと考えられるが、盛土工事の際には、丘陵部分はできるだけ掘削しないようにする必要があると判断された。これを踏まえて、工事実施設計では、排水溝などの施設も丘陵斜面から若干離して設置するなどの対応が取られた。しかし、盛土で覆われる斜面にあった樹木3本分については、伐採のうえ抜根工事を行うことが必要となり、この工事の際に立会調査を行うこととなった。立会調査は、宮城県教育委員会と女川町教育委員会の担当者と、東北大学埋蔵文化財調査室の担当者が合同で行った。調査の結果、いずれも新しい盛土で遺物も出土していない。平坦面を造成した際に、土砂を下に押し出す形で工事が行われたものと考えられる。



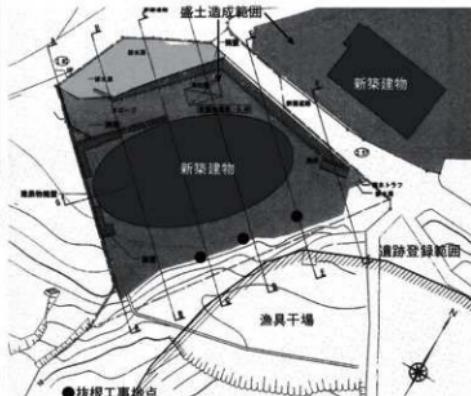
1. 小浜地区の位置 (縮尺1/25,000)



2. 被災後の状況 (北東から、2012年3月27日)



3. 工事範囲 (縮尺1/5,000)



4. 立会調査地点 (縮尺1/1,000)



5. 立会調査地点全景 (西から、2013年3月7日)



6. 中央抜根作業状況 (西から、2013年3月7日)

図12 女川町小浜地区立会調査状況

## 2. 遺物整理作業

2012年度は、次の3件の整理作業を実施した。

### ①仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点（B K13）の整理作業

川内北地区の厚生会館増改築工事に伴う調査で、2008年度に増築建物本体部分、2009年度に付帯施設部分の調査を実施している。近世の武家屋敷に関わる、柱穴や溝などが発見されている。遺物は、近世の陶器類や瓦など、本体部分で29箱、付帯工事部分で2箱出土している。2012年度は、一部残っていた遺物の図化作業、造構・遺物図版のレイアウト、報告書の原稿作成と編集などの作業を実施した。これによって整理作業は終了し、調査成果は『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点』（東北大大学理蔵文化財調査室調査報告2）として取りまとめて、印刷刊行した。

### ②芦ノ口遺跡第7次調査（TM7）の整理作業

2009年度に実施した、電子光物理学研究センター光源加速器棟新館に伴う調査である。粘土採掘坑と考えられるピットを83基検出している。遺物は、土師器や縄文土器などが、2箱出土している。2012年度は、出土遺物の実測図作成とトレースなどの作業を行った。

### ③芦ノ口遺跡第8次調査（TM8）の整理作業

2009年度に実施した、電子光物理学研究センター特高変電所受変電設備改修その他工事に伴う調査である。造構は検出されていないが、丘陵側からの崩壊土層に若干の遺物が含まれていた。遺物は、縄文土器などが1箱出土している。2012年度は出土遺物の実測図作成とトレースなどの作業を行った。

## 3. 年次報告・調査報告の刊行

埋蔵文化財調査室では、『東北大大学理蔵文化財調査年報』（以下「調査年報」と略記）を、1から24まで刊行してきた。この「調査年報」には、発掘調査以外の各種事業を含む当該年度に実施した事業の概要報告と、実施した発掘調査報告の両方を、併せて掲載してきた。そのため、「調査報告」の刊行まで期間を要することとなり、事業概要の報告が遅くなっていた。また、頁数の多い大冊となるため、調査室の概要を知りたいという目的には、必ずしもふさわしくなかった。このような理由から、2010年度より、年度ごとの事業概要の報告と、発掘調査の報告を、分離して刊行していくこととした。年度ごとの事業概要については、『東北大大学理蔵文化財調査室年次報告』（以下「年次報告」と略記）という形で、毎年報告することとした。

本調査を実施した発掘調査報告については、『東北大大学理蔵文化財調査室調査報告』（以下「調査報告」と略記）というシリーズ名で、各調査ごとに、調査報告書を刊行していく形に移行した。それぞれの調査について、整理作業が終了次第、順次刊行していくこととしている。

これまでに刊行した「調査年報」「年次報告」「調査報告」については、IV. 資料に、一覧を掲載している。

2012年度は、「年次報告」1冊、「調査報告」1冊の、合計2冊を印刷刊行した。

『年次報告』は、前年度の2011年度の事業概要を掲載した、「東北大大学理蔵文化財調査室年次報告2011」を刊行した。2011年度の、発掘調査や立会調査の概要と、整理作業や保存処理作業など、関連する調査室の業務概要を取りまとめて掲載した。

『調査報告』は、『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点』（東北大大学理蔵文化財調査室調査報告2）を印刷刊行した。2008年度から2009年度にかけて調査を実施した、川内北キャンパス厚生会館増改築に伴う、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点の調査成果を取りまとめたものである。調査成果を城下絵図と照らし合わせて検討し、調査地点が仙台城二の丸裏門への入り口近くに置かれた「北下馬廻」の周辺に相当することなどを指摘した。

#### 4. 保存処理事業

東北大学埋蔵文化財調査室では、仙台城跡の出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品など、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この内、木製品と金属製品については、当調査室で保存処理を進めている。木製品については、1997年度以降、糖アルコール法によって処理している（調査年報16）。

木製品については、2007年度に調査した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（B K11）から出土した遺物の処理を、2010年度・2011年度と実施してきた。2012年度は、この第11地点の出土木製品の残っていたものの処理を継続して実施し、全ての処理を終了した。また、2001年度に調査を実施した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（B K7）の調査で出土した木製品の内、大型の剔りものの保存処理が未実施であったので、2012年度に実施した。これらの作業によって、一部の大型製品を除くと、2010年度までの調査で出土した木製品については、保存処理は終了したこととなる。2011年度以降の調査では、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（B K14）、第15地点（B K15）などで木製品が出土しているが、調査が継続中で本格的な整理作業を行っていないため、保存処理には着手していない。

銅製品については、2008～2009年度に調査を実施した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点（B K13）から出土した遺物のさび取り作業を、2011年度に実施していた。2012年度は、これらの銅製品について、樹脂含浸による保存処理を実施し終了した。また、武家屋敷地区第7地点（B K7）および武家屋敷地区第11地点（B K11）の、一部未処理となっていた銅製品についても保存処理を実施し、終了した。これによって、2010年度までの調査で出土した銅製品については、保存処理は終了したこととなる。

鉄製品については、釘をはじめとして大量の遺物が出土しているが、國化して報告した資料以外は、ほとんどが未処理のままである。2012年度は、木製品と銅製品の処理を優先させたことから、鉄製品の保存処理作業は、ごく一部にとどまっている。

#### 5. 資料保管状況

東北大学埋蔵文化財調査室では、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンボックスク#32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。また2009年度より、収蔵用の箱に木製箱を採用している。油脂製のコンテナは、火災の際に甚大な被害を受けるのに対して、木製箱は耐熱性が高く火災時に燃焼するまでの時間が長いことが明らかとなっている。そのため東北大学埋蔵文化財調査室では、整理作業後の収蔵保管にあたっては、油脂製箱から木製箱へ取り替えていくこととし、2009年度から一部は木製箱へ詰め替えを行っている。

これら遺物の全体量を把握するために、容器の種類や大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品など保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、これには含まれていない。東北大学埋蔵文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、表4と図13である。なお、年次報告の2008～2011で報告していた遺物箱数には、一部誤りがあることが判明した。2008年度に調査を実施した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点の箱数に、集計ミスがあったことによる。今回報告する箱数が、修正後のものである。

2012年度の調査によって新たに増加した箱数は、18箱である。2012年度には、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点の整理作業が完了した。第13地点では、整理前は31箱であったが、整理後は接合作業などによって容積が増加したため46箱となった。このため、整理報告済みの箱数は46箱増加して2,836箱となった。未整理のものは、差し引きで13箱減少し65箱となった。合計の遺物総量は、2,901箱である。この内、整理・報告済みのものの比率は97.8%である。

表4 年度ごとの収蔵遺物箱数の推移

年 度	未整理箱数	整理済箱数	合計箱数	備 考
1983	104	0	104	
1984	4	104	108	年報1(1983年度調査分)刊行
1985	113	108	221	年報2(1984年度調査分)刊行
1986	245	108	353	
1987	293	108	401	
1988	920	108	1,028	
1989	811	221	1,032	年報3(1985年度調査分)刊行
1990	1,218	221	1,439	
1991	1,086	401	1,487	年報4・5(1986・87年度調査分)刊行
1992	463	1,028	1,491	年報6(1988年度調査分)刊行
1993	732	1,032	1,764	年報7(1989年度調査分)刊行
1994	742	1,032	1,774	
1995	861	1,032	1,893	
1996	469	1,439	1,908	年報8(1990年度調査分)刊行
1997	435	1,491	1,926	年報9・10(1991・92年度調査分)刊行
1998	236	1,774	2,010	年報11・12(1993・94年度調査分)刊行
1999	117	1,893	2,010	年報13(1995年度調査分)刊行
2000	751	1,926	2,677	年報14・15・16(1996・97・98年度調査分)刊行
2001	1,216	1,926	3,142	年報17(1999年度調査分)刊行
2002	1,234	1,926	3,160	
2003	491	2,370	2,861	二の丸第17地点整理後詰め直し等で箱数減少
2004	491	2,370	2,861	年報18(2000年度調査分)刊行
2005	472	2,384	2,856	年報19-1・20(2001・02年度調査分)刊行
2006	467	2,391	2,858	年報19-3・21(2001・03年度調査分)刊行
2007	281	2,507	2,788	年報19-4・22(2001・04年度調査分)刊行
2008	198	2,619	2,817	年報19-2・23(2001・05年度調査分)刊行
2009	34	2,790	2,824	地下鉄補償関係調査整理作業終了
2010	34	2,790	2,824	
2011	78	2,790	2,868	
2012	65	2,836	2,901	調査報告2(武家屋敷地区13地点)刊行

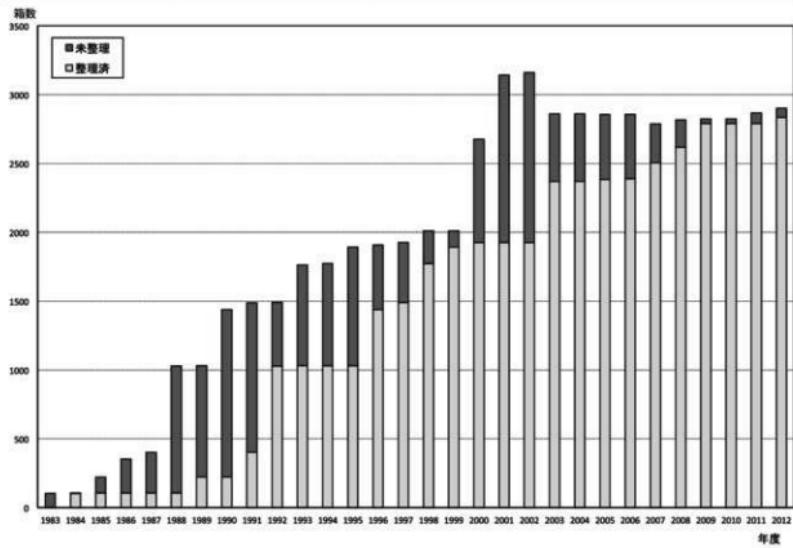


図13 収蔵遺物量の推移

## 6. 研究活動

### (1) 受託研究・共同研究・研究協力等

2012年度に実施した受託研究・共同研究はなかったが、研究協力等として、以下の2件を実施している。

- ・弘前大学へのウリ科種子資料提供

弘前大学人文学部の田中克典氏から、ウリ科種子のDNA分析のために、資料提供の依頼があり、2012年10月5日に資料を提供した。提供したのは、仙台城跡二の丸第17地点の便槽遺構、Pit393、Pit395、Pit348、土坑19から出土したウリ科種子である。

- ・日本文化財科学会公開講演会「過去に学ぶ防災」の共催

日本文化財科学会が文科省科学研究費「研究成果公開発表B」助成を得て行っている公開講演会シリーズ「文化遺産と科学」の平成24年度の事業として、公開講演会「過去に学ぶ防災」が、2012年10月21日に東北大用内萩ホールにて開催された。東日本大震災を踏まえ、発掘調査から得られた過去の地震・津波の痕跡や、被災文化財の救済などについて、専門研究者が最新の研究成果を一般向けに講演するものである。被災文化財のレスキュー活動を実施していることから、埋蔵文化財調査室が共催することとなり、開催に協力した。

### (2) 学会発表等

2012年度は、調査室の業務にかかわる、学会での研究発表等は行っていない。

### (3) 科学研究費採択状況

2012年度において、当調査室の文化財調査員で、科学研究費等の交付を受けたものは次のとおりである。

- ・菅野智則 学術研究助成基金助成金・若手研究(B) 650,000円 「縄文時代における居住形態の研究」

## 7. 教育普及活動

### (1) 非常勤講師

2012年度に、当調査室の文化財調査員で、非常勤講師を担当したものは次のとおりである。

- ・藤沢 敦 東北大学大学院文学研究科・文学部 考古学特論・各論（後期）「古墳時代研究の理論と方法」

### (2) 授業など教育活動への協力

2012年度の学内外での授業などの教育活動への協力としては、国際文科研究科の深澤百合子教授が担当する授業において、発掘調査現場の見学が6月12日に行われている。仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点の調査現場において、発掘調査の状況などを解説した。

### (3) 保管資料の貸出

2012年度は、調査室保管資料の貸し出し依頼などはなかった。

### (4) 外部からの派遣依頼等

当調査室の業務に関わって、あるいは文化財調査員の専門領域に関わる事項で、外部から派遣等の依頼があったのは、次のとおりであった。

担当者：藤沢敦

2012年5月19・20日 国立歴史民俗博物館基幹研究「東アジア世界における倭世界の実態」共同研究員

於：国立歴史民俗博物館

- 2012年6月11日 史跡山畠横穴群災害復旧事業打合せ 於：宮城県大崎市三本木ふるさと研修センター
- 2012年7月2日 東北大学国際文科研究科深澤研究室「東日本大震災と文化財・考古学についての講演」  
講師「3・11被災文化財の救出」於：東北大学川内北キャンパスC講義棟201教室
- 2012年9月13・14日 阿賀坊古墳群整備検討委員会 於：青森県おいらせ町東公民館
- 2012年9月22・23日 国立歴史民俗博物館基幹研究「東アジア世界における倭世界の実態」共同研究員  
於：国立歴史民俗博物館
- 2012年10月27・28日 国立歴史民俗博物館基幹研究「東アジア世界における倭世界の実態」共同研究員  
於：岡山県岡山市・総社市ほか古墳等関連遺跡、岡山大学
- 2012年10月31日 第27回仙台城跡調査指導委員会 於：仙台市博物館
- 2013年2月15日 第28回仙台城跡調査指導委員会 於：庄建上杉ビル
- 2013年3月3日 大安場史跡公園平成24年度歴史講演会講師 於：福島県郡山市大安場史跡公園  
「孤高の大型前方後方墳－大安場古墳から考える郡山市の古墳時代－」
- 2013年3月9・10日 国立歴史民俗博物館基幹研究「東アジア世界における倭世界の実態」共同研究員  
於：国立歴史民俗博物館
- 2013年3月28日 平成24年度房の沢古墳群出土品保存管理指導委員会 於：岩手県山田町中央公民館
- 担当者：音野智則
- 2012年5月19・20日 国立歴史民俗博物館基幹研究「先史時代における社会複雑化・地域多様化の研究」  
共同研究員 於：国立歴史民俗博物館
- 2012年5月27日 日本考古学協会第78回（2012年度）総会  
発表題目「東日本大震災の被災地からみた遺跡資料リポジトリ」於：立正大学
- 2012年7月14・15日 公開シンポジウム「東北地方における中期/後期変動期(4.3ka)イベントに関する考古学  
現象①」於：東北芸術工科大学  
発表題目「宮城県における縄文中期から後期にかけての様相」
- 2012年7月28～8月7日 アメリカ合衆国サウス・ビュージェット・サウンド・コミュニティーカレッジ、  
スクアシキン・アイランド族居留地、マカー族居留地博物館等にて資料調査  
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所松井章「北西海岸先史文化と縄文  
文化との比較研究」への研究協力
- 2012年10月27・28日 国立歴史民俗博物館基幹研究「先史時代における社会複雑化・地域多様化の研究」  
共同研究員 於：国立歴史民俗博物館
- 2012年11月15日 「文化遺産の記録をすべての人々へ！－発掘調査報告書の電子化と公開を考える－」  
発表題目「被災地の復興支援と遺跡資料リポジトリ」於：大阪大学

#### (5) 広報活動

- ・川内蔵ホール展示ギャラリー常設展  
東北大学川内南キャンパスのある「東北大学百周年記念会館（川内蔵ホール）」には、エントランスホールに  
展示ギャラリーが設けられている。この展示ギャラリーは、本部総務部広報課が事務担当となり、学内からの公  
募によって、学内の研究資料や研究成果を紹介するために使用されている。しかし、年間を通じた全ての期間を、  
公募の展示で構成することには困難が伴うことから、一定期間を常設展とすることとなった。東北大学史料館が  
中心となり、植物園・埋蔵文化財調査室が協力し、川内蔵キャンパスの歴史を基本テーマとする常設展「川内今昔  
物語」を2011年度から行っている。

2012年度も、前年度に引き続き、常設展として展示を行っている。学内公募の展示などが行われる期間は、常設展は行わないため、6月27日に常設展を一旦撤収した。他の展示などが終了した後、10月11日に常設展を再度設営し公開している。

展示の内容は、2011年度と基本的に同じ内容である。展示資料のほとんどは、埋蔵文化財調査室が保管している出土資料で構成されている。江戸時代の各種遺物が中心であるが、縄文時代・弥生時代・古代の遺物、近代の陸軍第二師団に関わる遺物も展示している。

#### ・調査室ウェブサイト開設

2011年度から、東北大大学の情報シナジー機構・サイバーサイエンスセンターにおいて、ウェブホスティングサービスの試行提供が開始された。これをを利用して、埋蔵文化財調査室のウェブサイトを2012年2月から公開した。調査室で刊行した調査報告書については、次に述べる遺跡資料リポジトリが東北大大学図書館により進められており、pdfファイルが公開されている。調査室のウェブサイトでは、遺跡資料リポジトリとリンクし、そちらを参照できるようにした。これにより、調査室のウェブサイトで必要な容量を少なくできることから、ウェブホスティングサービスの契約内容は、サブドメインなし（2 GB）の、<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>を取得して利用することとしている。2012年度も、前年度と同様の形態で、ウェブサイトを維持している。

#### ・遺跡資料リポジトリでの発掘調査報告書の公開

遺跡資料リポジトリは、電子化した発掘調査報告書を公開している歴史・考古学分野のサブプロジェクト・リポジトリである。研究者・学生を中心に利用需要は大きいものの、小部数発行で一般には利用にくかった発掘調査報告書を電子化・公開することで、報告書の流通と利活用の促進を目的としている。2008年度に、島根大学図書館を中心に中国地方5県から、国立情報学研究所のC S I 委託事業として開始された。2010年度以降は、全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトとして、対象を全国に拡大して進められてきた。

東北大大学附属図書館でも、2010年度からこの事業に参加し、宮城県内の発掘調査報告書をpdfファイルの形でウェブサイトで順次公開している。埋蔵文化財調査室では、2010年度より東北大大学図書館に協力し、調査室刊行の調査報告書を公開していただいてきた。2012年度も、当年度に刊行した『年次報告』『調査報告』を登録して公開していただいている。

## 8. 東日本大震災による被災文化財の救援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、津波被災地域を中心に、甚大な被害が発生した。博物館・資料館、資料収蔵施設など多くが被災し、膨大な量の文化財等が被害を受けた。個人で所蔵されていた文化財の被害も、きわめて大きなものとなった。これら被災した文化財を救援して後世に伝えることは、地域の歴史と文化を継承していくために不可欠であり、地域の復興のためにも欠かせない。そのため、被災文化財の救援活動（文化財レスキュー）が、様々な形で行われることとなった。被災文化財の救援活動は、被災した現地から回収と安全な場所への運搬、劣化を防止するための応急処理、安定した環境での一時保管が当面の作業で、その上で本格的な修復、恒久的な施設での収蔵へつながっていくこととなる。

埋蔵文化財調査室では、考古資料をはじめとする文化財の取り扱いに習熟し、保存処理の設備と技術を備えた専門家による機関として、被災文化財の救援活動を、震災支援の業務として行うこととした。2011年度には、文化庁が呼びかけて関係機関・団体で構成された東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会による文化財レスキュー事業に参加するとともに、N P O 法人宮城歴史資料保全ネットワークへの機材貸与などの協力などを行ってきた。被災地からの文化財の回収と運搬、応急処理は2011年度でおおむね終了し、2012年度は応急処理の終了した資料の一時保管を行っている。埋蔵文化財調査室では、石巻市石巻文化センター考古収蔵庫から回収された考古資料294箱の内の194箱、女川町マリンバル女川で展示されていた考古資料を継続して一時保管している。

なお、文化庁が主導して組織された東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会は、当初の目的を達し平成24年度末で活動を終了した。その際、協力してきた機関等への表彰が行われることとなり、埋蔵文化財調査室も文化庁長官からの感謝状を贈呈された。

救援委員会の文化財レスキュー事業は終了したが、被災した博物館・資料館などの再建には、長期の時間を要することから、被災文化財の一時保管も長期にわたることとなる。そのため、文化財レスキュー事業を引き継ぎ、被災した宮城県内の文化財の保全を図るため、文化財レスキュー事業に関わる関係機関・団体との連携・協力の下に必要な活動を行うことを目的として、宮城県被災文化財等保全連絡会議が2011年10月に設置された。被災文化財等の一時保管施設、地元市町教育委員会などから構成されることとなり、一時保管施設である東北大大学理蔵文化財調査室も、保全連絡会議に参加することとなった。

2012年度には、連絡会議は次の3回開催され、埋蔵文化財調査室でも担当者が出席した。連絡会議では、活動状況、一時保管施設での資料管理状況などについて、情報交換や協議が行われている。

第3回宮城県被災文化財等保全連絡会議 2012年6月6日 於：東北歴史博物館

第4回宮城県被災文化財等保全連絡会議 2012年9月26日 於：東北歴史博物館

第5回宮城県被災文化財等保全連絡会議 2013年3月13日 於：東北歴史博物館

### 〈引用・参考文献〉

仙台市教育委員会 1994 『仙台市青葉区文化財分布図』

仙台市教育委員会 1995 『仙台市太白区文化財分布図』

仙台市史編さん委員会編 2006 『仙台市史 特別編7 城館』仙台市

東北大大学理蔵文化財調査委員会 1985~1994 『東北大大学理蔵文化財調査年報』1~7

東北大大学理蔵文化財調査研究センター 1997~2006 『東北大大学理蔵文化財調査年報』8~18、19-1、20

東北大大学理蔵文化財調査室 2007~2010 『東北大大学理蔵文化財調査年報』19-2・3・4・5、21~24

東北大大学理蔵文化財調査室 2010~2013 『東北大大学理蔵文化財調査室年次報告2007~2011』

東北大大学理蔵文化財調査室 2011 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点－仙台市高速鉄道東

西線機能補償関係調査報告書－』東北大大学理蔵文化財調査室調査報告1

東北大大学理蔵文化財調査室 2013 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点』

東北大大学理蔵文化財調査室調査報告2

宮城県教育委員会 1998 『宮城県遺跡図』宮城県文化財調査報告書第176集

## IV. 資料

### 1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程

平成6年5月17日 規第56号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 調査室は、国立大学法人東北大学（以下「本学」という。）の特定事業組織として、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

(職及び職員)

第3条 調査室に、次の職及び職員を置く。

室長

文化財調査員

特任准教授

事務職員

その他の職員

(室長)

第4条 室長は、調査室の業務を掌理する。

2 室長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 室長の選考は、第6条に規定する運営委員会の議に基づき、総長が行う。

4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(文化財調査員)

第5条 文化財調査員は、室長の命を受け、調査室の業務に従事する。

2 文化財調査員は、調査室の職員をもって充てる。

(運営委員会)

第6条 調査室に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を置く。

(運営委員会の組織)

第7条 運営委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 東北大学施設整備・運用委員会各地区キャンパス整備委員会の委員 各1人

二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人

三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は准教授で、その都度委員長が指名するもの

四 施設部長

(委員長)

第8条 委員長は、室長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会の会務を総理する。

3 委員長は、必要があると認めるときは、運営委員会の同意を得て、委員以外の者を運営委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(調査部会)

第9条 運営委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、調査部会を置く。

(調査部会の組織)

第10条 調査部会は、部会長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 調査室の特任准教授
- 二 文化財調査員
- 三 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 四 施設部計画課長
- 五 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

(部会長)

第11条 部会長は、室長をもって充てる。

2 部会長は、調査部会の会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第13条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(幹事)

第14条 運営委員会に幹事を置き、施設部計画課長をもって充てる。

(事務)

第15条 調査室の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、調査室の組織及び運営に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

1 この規程は、平成6年5月17日から施行する。

2 東北大学埋蔵文化財調査委員会規程（昭和58年規第38号）は、廃止する。

3 東北大学公印規程（昭和46年規第17号）の一部を次のように改正する。

〔次のように〕略

附 則（平成16年4月1日規第207号改正）

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月26日規第80号改正）

1 この規程は、平成18年4月26日から施行し、改正後の国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程の規定は、平成18年4月1日から適用する。

2 平成18年4月1日（以下「適用日」という。）の前日にセンター長の任にある者は、適用日において改正後の第4条第3項の規定により室長となったものとみなし、その任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成18年5月16日までとする。

附 則（平成19年4月1日規第76号改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

## 2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2012年度）

委員長 室 長（文学研究科 教授）	阿子島 香
委 員 施設整備・運用委員会川内キャンバス整備委員会委員 （東北アジア研究センター 教授）	佐 藤 源 之
施設整備・運用委員会青葉山キャンバス整備委員会委員（環境科学研究科 准教授）	上高原 理暢
施設整備・運用委員会星陵キャンバス整備委員会委員（加齢医学研究所 教授）	石 岡 千加史
施設整備・運用委員会片平キャンバス整備委員会委員 （学術資源研究公開センター 准教授）	永 田 英 明
施設整備・運用委員会雨宮キャンバス整備委員会委員（農学研究科 教授）	國 分 牧 衛
文学研究科 教 授	大 藤 修
文学研究科 教 授	柳 原 敏 昭
文学研究科 准教授	鹿 又 喜 隆
工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
学術資源研究公開センター 教 授	柳 田 俊 雄
東北アジア研究センター 教 授	平 川 新
施 設 部 長	西 川 和 康
幹 事 施 設 部 計画課長	木 村 吉 宏

## 3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2012年度）

委員長 室 長（文学研究科 教授）	阿子島 香
委 員 文学研究科 教 授	大 藤 修
文学研究科 教 授	柳 原 敏 昭
文学研究科 准教授	鹿 又 喜 隆
工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
学術資源研究公開センター 教 授	柳 田 俊 雄
東北アジア研究センター 教 授	平 川 新
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（特任准教授）	藤 沢 敦
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	柴 田 恵 子
埋蔵文化財調査室 文化財調査員（専門職員）	菅 野 智 則
施 設 部 計画課長	木 村 吉 宏

#### 4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

〈東北大学埋蔵文化財調査年報〉

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報1	1985	昭和58年度（1983年度）事業概要 仙台城跡二の丸第1地点（NM1） 仙台城跡二の丸第2地点（NM2） 仙台城跡二の丸第3地点（NM3）	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		昭和59年度（1984年度）事業概要 青葉山B道路第1次調査（AOB1） 青葉山B道路第2次調査（AOB2・旧称AOF） 青葉山E道路第1次調査（AOE1）	
		昭和60年度（1985年度）事業概要 仙台城跡二の丸第5地点（NM6） 芦ノ口道路第1次調査（TM1） 芦ノ口道路1976年考古学研究室による調査（TK） 研究編－東北地方における近世窯業と陶磁器をめぐる問題ほか	
東北大学埋蔵文化財調査年報3	1990	昭和61年度（1986年度）事業概要 仙台城跡二の丸第4地点（NM4） 仙台城跡二の丸第5地点（NM7） 仙台城跡二の丸第6地点（NM8）	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		昭和62年度（1987年度）事業概要 仙台城跡二の丸第3地点（NM5）	
		昭和63年度（1988年度）事業概要 仙台城跡二の丸第5地点（NM5）	
東北大学埋蔵文化財調査年報4・5	1992	平成1年度（1989年度）事業概要 仙台城跡二の丸第5地点（NM5）付帯施設部分 仙台城跡二の丸第5地点（NM5）調査成果の検討 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第5地点（BK5） 川渡農場町西道跡第1地点（KW1）	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		平成2年度（1990年度）事業概要 仙台城跡二の丸第5地点（NM9）	
		平成3年度（1991年度）事業概要 仙台城跡二の丸第10地点（NM10） 芦ノ口道路第2次・3次調査（TM2・TM3） 考察編－仙台城二の丸跡の考古学的調査－	
東北大学埋蔵文化財調査年報10	1998	平成4年度（1992年度）事業概要 仙台城跡二の丸第13地点（NM13） 青葉山地区分布調査 研究編－相馬藩における近世窯業生産の展開	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成5年度（1993年度）事業概要 仙台城跡二の丸第12地点（NM12） 仙台城跡二の丸第14地点（NM14）	
		青葉山E道路第2次調査（AOE2） 平成6年度（1994年度）事業概要 仙台城跡二の丸第15地点（NM15） 青葉山E道路第3次調査（AOE3）	
東北大学埋蔵文化財調査年報11	1999	平成7年度（1995年度）事業概要 仙台城跡二の丸第11地点（NM11） 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第4地点（BK4） 青葉山E道路第4次調査（AOE4） 研究編－東北大学構内（仙台城二の丸跡）遺跡出土漆器資料の材質と製作技法	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成8年度（1996年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第6地点（BK6） 青葉山E道路第5次調査（AOE5） 芦ノ口道路第4次調査（TM4）	
		平成9年度（1997年度）事業概要 仙台城跡二の丸第16地点（NM16） 青葉山E道路第6次調査（AOE6）	
東北大学埋蔵文化財調査年報13	2000	平成10年度（1998年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第4地点（BK4） 青葉山E道路第4次調査（AOE4） 研究編－東北大学構内（仙台城二の丸跡）遺跡出土漆器資料の材質と製作技法	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成11年度（1999年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第5地点（BK5） 青葉山E道路第5次調査（AOE5） 芦ノ口道路第6次調査（TM5）	
東北大学埋蔵文化財調査年報14	2001	平成12年度（2000年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第6地点（BK6） 青葉山E道路第5次調査（AOE5） 芦ノ口道路第4次調査（TM4）	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成13年度（2001年度）事業概要 仙台城跡二の丸第16地点（NM16） 青葉山E道路第6次調査（AOE6）	

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大埋蔵文化財調査年報16	2001	平成10年度（1998年度）事業概要 研究編－糖アルコール含浸法における予備実験	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
東北大埋蔵文化財調査年報17	2002	平成11年度（1999年度）事業概要	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
東北大埋蔵文化財調査年報18	2003	平成12年度（2000年度）事業概要 仙台城跡二の丸第17地点（NM17）	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
東北大埋蔵文化財調査年報19 第1分冊	2006	平成13年度（2001年度）事業概要 芦ノ口道路第5次調査（TM5） 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 道構	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
東北大埋蔵文化財調査年報19 第2分冊	2009	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 陶磁器・土器・土製品・瓦	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査年報19 第3分冊	2007	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 木簡・墨書きある木製品	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査年報19 第4分冊	2008	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） その他の遺物	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査年報19 第5分冊	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点（BK7） 分析・考察	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査年報20	2006	平成14年度（2002年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第8地点（BK8） 青葉山E道路第7・8次調査（AOE7） 青葉山E道路第8次調査（AOE8）	東北大 埋蔵文化財調査研究センター
東北大埋蔵文化財調査年報21	2007	平成15年度（2003年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第9地点（BK9） 芦ノ口道路第6次調査（TM6）	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査年報22	2008	平成16年度（2004年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査年報23	2009	平成17年度（2005年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査年報24	2010	平成18年度（2006年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点（BK10） 青葉山新キャンパス地区試掘調査	東北大埋蔵文化財調査室

#### 〈東北大埋蔵文化財調査室調査報告〉

シリーズ名	書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大 埋蔵文化財調査室 調査報告1	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地 区第11地点・第12地点 -仙台市高速鉄道東西線機能補 償開拓調査報告書-	2011	東西線補償開拓係埋蔵文化財調査の概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11） 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（BK12） 川内地区の絵図記載人名の検討 川内地区における江戸時代の道路の復元	東北大 埋蔵文化財調査室
東北大 埋蔵文化財調査室 調査報告2	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地 区第13地点	2013	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（BK 13）	東北大 埋蔵文化財調査室
東北大 埋蔵文化財調査室 調査報告3	芦ノ口道路第7次・第8次調査	2014	芦ノ口道路第7次調査（TM7） 芦ノ口道路第8次調査（TM8）	東北大 埋蔵文化財調査室

#### 〈東北大埋蔵文化財調査室年次報告〉

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大埋蔵文化財調査室年次報告2007	2010	平成19年度（2007年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査室年次報告2008	2010	平成20年度（2008年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査室年次報告2009	2012	平成21年度（2009年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査室年次報告2010	2012	平成22年度（2010年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査室年次報告2011	2013	平成23年度（2011年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室
東北大埋蔵文化財調査室年次報告2012	2014	平成24年度（2012年度）事業概要	東北大埋蔵文化財調査室

\*これらの刊行物は、宮城県道路リポジトリおよび東北大機関リポジトリTOURで全て公開している。

宮城県道路リポジトリ <http://rar.miyagi.nii.ac.jp/>

東北大機関リポジトリTOUR <http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/>

---

---

東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2012

平成26年3月31日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室  
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1  
TEL 022(217)4995

印刷 株式会社 東 北 プ リ ン ト  
TEL 022(263)1166

---

---